

地域に求められる子育て支援施設 ～地域の子どもたちも一緒に大きくなろうよ～

☞ **取り組み内容のポイント** ☞ 近隣に住む子育て中の親子に園を開放し、子育てに関する情報を共有したり、育児講座などを通して楽しく子育てができるよう支援していく。その中で、保護者同士が友だちになったり、保育士を手伝ったりするボランティアの育成をする。

広島県

社会福祉法人

微妙福祉会

〒731-4224 広島県安芸郡熊野町神田 15-1

TEL：082-820-5000 FAX：082-820-5500

●法人創立年

昭和 47（1972）年

●法人実施事業

- ① 経営施設数合計：4 施設
- ② 経営施設・事業【種別毎の数】：
保育園… 4

●法人の理念・経営方針

仏教保育と児童福祉法の理念に基づき、「感謝と思いやりのある、自主的な行動のとれる子」を育成する。
群れを作ろうをキャッチフレーズに、地域の次世代育成支援センターを目指す。
社会福祉法人としての使命を自覚して、公共性・公益性かつ信頼性の高い組織を目指す。

●取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ① 定款への記載：記載している
- ② 事業報告・計画への記載：

●取り組みを実施している施設の概要

【施設名】：くまの・みらい保育園
【施設種別及び利用定員】：保育園 定員 180 名

●活動内容

- ◇ 活動開始年：平成 19（2007）年 4 月
- ◇ 活動の対象者：近隣に住む子育て中の親子
- ◇ 活動の頻度・時間
平成 19 年（2007）4 月より平成 22（2010）年 3 月まで：
週 3 回 1 回あたり 2 時間
平成 22（2010）年 4 月より：
週 5 回 1 回あたり 2 時間

◎活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人としては、「当園に来園して下さる方は、決して拒むことなく、どなたでも、いつでも WELCOME な気持ちで関わる。」ということを大切にしている。

筆の町熊野町には、町が運営する子育て支援センターがあるが、保育園で園を開放している施設はない。保育園が行う施設開放のメリットは、園児と同じように行事に参加でき、たくさんの同年齢の子どもたちと過ごせるといったところではないかと思う。また、普段、我が子しか見ていない親が、子ども同士が仲良く遊んだり、喧嘩をしたりする姿を見て、子どもの育ちを学ぶ機会となればと思う。

核家族化が進み、住まいも縦長のマンションが増え、住宅事情が変わっている。子育てに不安があったり、悩んでいたとしてもなかなか話す相手がいないというのが、昨今の社会であるが、出かける場所があるだけで気分もはれ、行ってみると同じような

仲間がいるという安心感を持つことができれば、子育ても楽しく思えるのではないかと思う。

園内は、午前中のみ開放であるが、園庭は、開園時間中いつでも開放している。地域のみならず支えあい、楽しく子育てができる拠点となればと願い、園開放に取り組むこととした。

◎実施内容

開設当初は、月・水・金曜日と週 3 日開放していたが、平成 22（2010）年度より月曜日から金曜日まで週 5 日開放している。利用者から「いつでも行けるという安心感がある」と、利用者から嬉しい声が聞かれる。

内容は、絵本の読み聞かせをしたり、身近な素材を使っでの制作活動、また、お誕生日会や四季折々の園の行事など、園児と一緒に参加し、楽しいひと時をみんなで共有している。外部講師を招いて、ベビーマッサージや親子体操などを行い、親子での関わり方なども学ぶ機会をもつ。また、食育講座を開催し、日ごろから子どもの食事につ

いて悩んでいると言う保護者に、栄養士が助言したり、看護師が予防接種や発育の相談に応じる場を設けている。子どもたちを遊ばせながら、「夜泣きをするの」などと困っていることなどを担当の保育士に話したり、保護者同士で話す姿も見られる。話すことで気持ちが楽になったり、「うちもよ」と言いあうことで、自分だけじゃないと安心できる場となり、友だち作りのきっかけとなっている。

忙しそうにしている保育士を自主的に手助けしてくれる母親も現れ、ボランティアスタッフとして活躍している。

◎活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

毎回たくさんの地域の方が利用してくださっている。利用者は、母親と子どもがほとんどであるが、最近父親の参加も増えた。「みらいに行っておいで。と追い出された。」と恥ずかしそうに話す父親に、「育メンだね。」と声をかけると、その場は笑いで和んでいる。孫の面倒を見ているというおじいちゃんも決まって10時から11時まで利用される。「どうしたらいいかわからんけど、ここに来たら子どもがよく遊ぶから助かる。」と言いながら帰っていく。毎日開放することによって、「子育ては楽しいもの」と思える保護者が増えてきているのではないかな。

また、夕方病院が閉まった時間帯に「熱が高いけどどうしたらいいか」などと、電話がかかってくることもある。症状を聞きながら、夜間診察をしてくれる病院を紹介すると、安心した声に変わる。

保護者同士の輪も広がり、子育てについての情報を共有する場となっており、子育ては、地域み

んなで取り組むものという認識が広がっていきつつあるのではと感じる。

◎今後の展開

ありがたいことに「くまの・みらい保育園は楽しい」と、思ってくださっている方が少しずつ増えているが、さまざまな行事に参加し、楽しんでもらうという受け身の立場が、当然になってしまっていると感じる。地域の保護者が、主体的に取り組める活動を計画すると、より楽しくなるのではないかな。「やってもらう子育て支援」から「自ら取り組む子育て支援」にならないか考える。例えば、誕生日会などを企画、実行すれば、達成感を味わい、楽しさも倍増するだろう。これからの子育て支援の在り方を工夫したい。

また、地域への子育て情報の発信地として、地域の保護者のニーズを探り、「困ったことがあったら、みらい保育園にいてごらん」と言ってもらえるよう子育て拠点施設としてさらに取り組んできたい。

◎主な経費や財源及び人員等

		※年間あたり	
主な経費（支出）	経費概算額	主な財源（収入）	財源概算額
通信費	23,283 円	熊野町委託費収入	490,000 円
消耗品費	121,113 円		
雑費	223,894 円		
外部講師謝礼	133,371 円		
人件費	1,786,000 円		
<合計>	2,287,661 円	<合計>	490,000 円

- ・取り組みに係わった職員数〔39〕名
（職種等：保育士・看護師・栄養士など全職員）
- ・取り組みを実施している施設の事業規模（平成23（2011）年度決算の事業活動収入）〔154,687〕千円
※法人全体の事業規模（同上）〔713,130〕千円



桑原先生によるベビーマッサージ



作って遊ぼう ～こいのぼりを作ろう～



子育て支援への父親参加